

海外留学報告書（専門科目履修者用）

●基礎情報

学科	食生命科学科	コース	国際食産業科学コース
派遣国名	インドネシア	派遣期間	2019年8月～12月
派遣大学名	スリウィジャヤ大学	所属学部等	農学部食生命科学科

●履修科目

科目名	科目コード	単位数	難易度（簡易な自由記述）
Functional food and food phytochemistry	PTH 307117	3	テスト2回、プレゼン1回だった。覚えることも多く、復習は欠かせない。
Spice, Medicinal and industrial crop production	PAG 33215	3	3人の先生のうち、2人は英語をあまり話せない先生だったので、理解に苦労した。
Integrated Pest and Disease Management	PPT 37115	3	専門ではなかったため、理解に苦しんだが、プレゼンのお題やテスト（1回ずつ）は簡単だった。
Traditional Processing Technology for fishery Products	PHI 23215	3	プレゼン1回、レポート1回、テスト2回とやることは多いが、食品系の生徒としては楽しめた。
Management of Fishery Industry	PHI 23215	3	プレゼンが2回、レポートが2回あり、大変だった。

●おおまかな週間スケジュール（時間区分は適宜変更可）

	月	火	水	木	金
07:30 ～ 08:00	学校へ	学校へ	学校へ	学校へ	学校へ
08:00 ～ 09:40	Integrated Pest and Disease Management （後半）	Functional food and food phytochemistry（前半） Spice, Medicinal and industrial crop production（後半）	Integrated Pest and Disease Management （前半）	Traditional Processing Technology for Fishery Industry	Spice, Medicinal and industrial crop production （前半、中盤）
09:50 ～ 11:40	勉強	勉強	Management of Fishery Industry	勉強	勉強
11:40 ～ 13:00	昼食	昼食	昼食	昼食	昼食
13:00 ～ 14:30	Functional food and food phytochemistry （後半）	勉強	勉強	勉強	勉強

●現地科目に関する基礎アンケート（該当する項目に○）

設問	①	②	③	④	⑤
授業の内容はわかりやすかったですか？ ①日本と同様の姿勢で受けることができた ②わからない部分は努力で克服した ③あまりわからず焦っていた ④大部分諦めてしまった ⑤その他		○			
授業の英語はわかりやすかったですか？ ①わかりやすい英語で理解できた ②ほとんど問題なかった ③わかりにくく苦勞した ④理解が困難だった ⑤主に現地言語が使用されていた			○		
シラバスや事前説明に沿って授業が進められていましたか？ ①計画通りに授業が進行した ②一部内容が異なったが問題なかった ③内容が突然変更されて困った ④全く内容が違った ⑤その他	○				
<p>その他特筆すべきこと（任意記述）：授業を受けた先生の中で2人の先生はあまり英語を話すことができず、たまにインドネシア語が混ざっていて理解ができなかった。</p>					

●現地生活に関する基礎アンケート（該当する項目に○）

設問	①	②	③	④	⑤
現地学生とのコミュニケーションはいかがでしたか？ ①日本人学生と同様のコミュニケーションが取れた ②意思疎通がとれ、一緒に遊びに行ったりもした ③あまりコミュニケーションを取れなかった ④引きこもっていた ⑤その他		○			
以下、学生生活に関する各項目について評価をお願いします。 ①非常に良かった ②良かった ③普通 ④悪かった ⑤非常に悪かった					
・寮や宿舎の住み心地				○	
・大学の設備（講義室や実験室等）			○		
・現地での食事について			○		
・休暇を利用した課外活動への参加			○		
・体調を崩した時の相手大学担当教職員の対応		○			
・その他トラブルがあった時の相手大学担当教職員の対応		○			
・病気やトラブルがあった時に現地友人が助けてくれたか	○				
・病気やトラブルがあった時の現地日本人学生が助けてくれたか					○
<p>その他特筆すべきこと（任意記述）：現地日本人は存在しない。</p>					

授業で学んだ専門的な内容について（400 字程度）

私の専門は、食品関係だ。特に、この食品は体の中でどのように働き、体に影響を及ぼすかを学んだりする。そのような科目は 1 科目しかとらなかった。他は自分の専門外の科目だったり、インドネシアの伝統的なものを学ぶ授業を受けたりしてみた。最初のころは、異国の地に慣れることやいろいろな不安で頭がいっぱいになり、ネガティブな気持ちになり、「なんでこの科目を受けたのだろう」などと思っていた。しかし、Integrated Pest and Disease Management を学んだ時、作物に付着する害虫を除去するためには、殺虫剤などの化学物質によって、環境に悪影響を及ぼすもの以外にも、畑の近くに害虫捕獲粘着紙（特に黄色、白色）や防虫シートを被せたりするのが効果的だ。また、先生に日本の IPM (Integrated Pest Management) をプレゼンテーションでやってと言われたとき、機械によって、害虫駆除を行うことしかわからなかった。その後、インターネットで色々調べてみると、ICT (Information and Communication Technology) によって、スマホやタブレットなどの機械と連動して、作業を行うことを可能にしていることが分かった。これによって、若い人が、長年やってきた匠と呼ばれる人達と同じレベル、またそれ以上の生産効率を手に入れることができる。日本に住み、農学部在籍しながら、この事実を異国の地であるインドネシアで知ることができ、改めて違う内容の勉強でも学べることはあるのだと再発見できた。

海外の大学で授業を履修するにあたって工夫した点および反省点（300 字程度）

他の AIMS の生徒であるフィリピン人やベトナム人はすごく英語を話す能力が高く、以前他の国に AIMS の生徒として留学していたインドネシア人もとても英語が堪能だった。最初のころは、文法を間違えずに言えているだろうか、発音はあっているだろうか、など失敗したくないと思い、あまり話すことができなかった。そして、早く返答することもできなかった。そのため、首でうなずく、首を振っている間に返答を考えて、自分の意見を話していた。これが、工夫した点だ。

反省点としては、最初のころ、異国の地であるインドネシアでうまくやっていけるかを考えるだけで、授業に集中できなくなっていた。もっと、インドネシア人のようにポジティブな考えを持って、生活をしていたら、最初のころから、先生に質問、話すことができたと思う。

多様な文化・価値観に触れることで得られたこと（300 字程度）

インドネシアには日本では経験できない多様な文化・価値観がある。ムスリムの方々、手で食事をする、トイレに紙がない、私の滞在した地域は横断歩道がなく、手で車に止まるように合図しないと道を渡ることができないなど、そのほかにもたくさんある。最初の頃、手でものを食べることやトイレに紙がないのは抵抗があった。しかし、4 か月も生活していると、何の抵抗もなく、何も考えずに食事、トイレをすることができた。このように、新たなものに触れ、挑戦することで、自分の成長を肌で感じ取ることができ、日本での生活がとても快適なものであると、改めて感じられる。また、経験したことは聞いたりするよりも頭に残り、自分の財産として残ると感じた。

留学で得た知識・経験を、自身の将来にどのように活かしていくか（400 字程度）

英語圏ではないので英語が堪能になったとはあまり感じない。しかし、日本に比べると、何倍も不自由な国（例えば、蛇口から出る水は汚いので飲んではならない、トイレに紙を流す文化がない、ごみの分別がない、そしてそのごみを燃やすことで処分しているので煙が立ち、大学周辺にスモッグが発生して空気が汚いなど）で 4 か月も過ごしたことになるので、身も心も留学する前よりも強くなっていると思う。そして、異国の地の環境に慣れることができたというのは、自分でも素晴らしいことだと思った。だから、これから待っている、就活、卒論、院に行く場合では、修論、また社会に出てから起こる大変なこと（立場、人間関係など）に対しても、立ち向かっていけると思う。また、日本人だけでなく外国人の考え方も一緒に暮らしてみて少しでも分かった。そのため、もし、社会にでて、外国人と一緒に働く場合のコミュニケーション、イスラム教の方々への対応の仕方などは理解できたと思う。

派遣先大学で特に良かった点（300 字程度）

スリウィジャヤ大学で特に良かった点は大学の生徒、先生などのつながりの強さだ。農学部では、よく、先生と生徒がバレーボールをしたり、談笑をしたりしている。そのため、すぐに生徒同士、生徒と先生の仲が深まる。私にも、生徒、先生が歩み寄ってくれて、親身になってくれた、また、気にかけてくれた。これは自信をもって、素晴らしいと思う。その後、大学の生徒は私を休日に遊びに誘ってくれた。また、大学の先生は、教室以外でも、廊下であったときは「調子はどう？」、「この大学はどう？」、「休日は何をした？」など、フランクにコミュニケーションをしてくれた。この点は、日本と比べて、とても優れていると思う。私は、スリウィジャヤ大学周辺は遊びに行く場所が少なく、土日祝日くらいしか街に行くことができず、平日は授業後、暇なため、みんなで遊ぶ、話すなどの流れでこの利点が生まれると思った。

同じ大学へ行く後輩へのアドバイス（300 字程度）

スリウィジャヤ大学は上述した通り、環境面は日本に比べると、悪いと思う。私は最初、Student Center というところに住んでいたが、断水（タンクが壊れたため）して 1 週間ぐらい水が使えなくなり、Apartment に引っ越した。その 1 週間は Apartment の友達の部屋でシャワーを浴びたり、ガロンの水を使ったりしていた。最初はこの大学の環境面に驚きは隠せないと思う。アクシデントもたくさんある。そんな時は、ネガティブにならず、大丈夫、何とかなると心の中で思うべき。また、どうしようもない上述のアクシデントなどはインドネシアの友達に頼った方が早い。アパートの管理をしている人には英語が通じないため。そして、勉強だけでなく旅行をすることで、リフレッシュすることも大切。たくさんの世界遺産、有名な場所がある。ぜひ、インドネシア生活を楽しんで。

留学の様子がわかる写真（画像2枚程度）



（AIMS 生と昨年茨城大学に留学した Dian）

海外留学報告書（専門科目履修者用）

●基礎情報

学科	食生命科学科	コース	国際食産業科学コース
派遣国名	インドネシア	派遣期間	2019年8月～12月
派遣大学名	スリウィジャヤ大学	所属学部等	農学部食生命科学科

●履修科目

科目名	科目コード	単位数	難易度（簡易な自由記述）
Halal assurance system	PTH 509317	3	教授によってテストの難易度が異なる。
South Sumatra traditional food processing technology	PTH 410317	3	教授によって授業の趣向、テストの難易度が異なる。科学的な視点も必要。
Functional food and food phytochemistry	PTH 307117	3	専門用語(臓器、微細物、病気など)が頻出する。日本の授業で出てきた場合は覚えておく留学先で苦労しない。
Management of fishery industry	PHI 23215	3	テストの代わりにプレゼンをした。
Traditional processing technology for fishery products	PHI 23115	3	難易度はそこまで高くないが、課題が出ると少し大変。
Spice, medicinal and Industry crop production	PAG 33215	3	担当してくれた先生の英語があまり堪能でなく、その点は大変だった。

●おおまかな週間スケジュール（時間区分は適宜変更可）

	月	火	水	木	金	土	日
07:00							
08:00		授業		授業	授業		
～09:40		授業		授業	授業		
09:50	授業		授業		授業		
11:30	授業		授業		授業		
11:30	昼食	〃	〃	〃	〃		
～13:00	昼休み	〃	〃	〃	〃		
～14:40					授業		
15:00	洗濯等	〃	〃	〃			
16:00							
17:00							
18:00	入浴	〃	〃	〃	〃	〃	〃
19:00	夕食	〃	〃	〃	〃	〃	〃

●現地科目に関する基礎アンケート（該当する項目に○）

設問	①	②	③	④	⑤
授業の内容はわかりやすかったですか？ ①日本と同様の姿勢で受けることができた ②わからない部分は努力で克服した ③あまりわからず焦っていた ④大部分諦めてしまった ⑤その他	○				
授業の英語はわかりやすかったですか？ ①わかりやすい英語で理解できた ②ほとんど問題なかった ③わかりにくく苦勞した ④理解が困難だった ⑤主に現地言語が使用されていた		○			
シラバスや事前説明に沿って授業が進められていましたか？ ①計画通りに授業が進行した ②一部内容が異なったが問題なかった ③内容が突然変更されて困った ④全く内容が違った ⑤その他		○			
<p>その他特筆すべきこと（任意記述）：</p> <p>日本ほどみんな時間やスケジュールに厳しくないの、先生方と自分たち自身で連絡を取らないと授業が延期やキャンセルになって進度が遅れる。帰国日を考慮して授業が予定通り進むように気を付けること。</p>					

●現地生活に関する基礎アンケート（該当する項目に○）

設問	①	②	③	④	⑤
現地学生とのコミュニケーションはいかがでしたか？ ①日本人学生と同様のコミュニケーションが取れた ②意思疎通がとれ、一緒に遊びに行ったりもした ③あまりコミュニケーションを取れなかった ④引きこもっていた ⑤その他		○			
以下、学生生活に関する各項目について評価をお願いします。 ①非常に良かった ②良かった ③普通 ④悪かった ⑤非常に悪かった	/	/	/	/	/
・寮や宿舎の住み心地		○			
・大学の設備（講義室や実験室等）		○			
・現地での食事について	○				
・休暇を利用した課外活動への参加		○			
・体調を崩した時の相手大学担当教職員の対応	○				
・その他トラブルがあった時の相手大学担当教職員の対応	○				
・病気やトラブルがあった時に現地友人が助けてくれたか	○				
・病気やトラブルがあった時の現地日本人学生が助けてくれたか	/	/	/	/	/
<p>その他特筆すべきこと（任意記述）：</p>					

授業で学んだ専門的な内容について（400 字程度）

Halal assurance system では、イスラム教における食についての考え方や、食品や生活用品が製造販売される過程及び注意すべき点を学んだ。日本でイスラム教徒やハラフードを見かけることはあってもハラルについて学ぶことは難しいと思うので、これからのグローバル時代を生きる上でも勉強になった。

South Sumatera traditional food processing technology とでは、インドネシアや私の留学先である南スマトラ特有の食品や加工方法を学んだ。キャッサバやドリアンなど日本では見かけない食品の利用の仕方や、大豆や魚のすり身など日本にあるものでも日本とは違う加工をされている食品について学ぶことができて楽しかった。

Management of fishery products では、普段自分の学部では学べない経済学系の内容を学んだ。日本ですでに HACCP について学んだが、それと同じような規格がそれぞれの国にあるということを知ることができて良かった。特に、この授業はベトナム人とフィリピン人の留学生と一緒に授業を受けたので、授業に対する姿勢やプレゼンの様子などがとても刺激になった。

海外の大学で授業を履修するにあたって工夫した点および反省点（300 字程度）

先生から生徒へ問いかけることが日本での講義よりも多いので、なにか聞かれたときはわからなくてもとにかく何か答えるようにしていた。適切な英単語が浮かばなくても先生方が拾ってくれるし、間違っていれば訂正してくれるので何も答えないで終わるということがないようにしていた。

授業で出てきた英単語はノートにメモして、次出てきたときに覚えているかもしくはノートを見返してわかるようにしていた。日常生活で使わないような単語でも、勉強していると再び見かけることがあるし、何より言葉がわからないと理解できない。復習してその日の内容がやっとわかるのでは授業を受けている時間をもったいないので、授業中に出てきた知らない単語はすぐに調べた。

多様な文化・価値観に触れることで得られたこと（300 字程度）

私の留学先はイスラム教徒が多い地域だったので、イスラム教徒の友達との生活や授業を通してイスラム教に対する理解が深まった。また、現地にはキリスト教徒の友達や他の国からの留学生もいたので、イスラム教だけでなくキリスト教やヒンドゥー教の文化にも少し触れることができた。それぞれ違いがあってもそれらを受け入れ、多様なことが当たり前という環境に身を置けて良かったと思う。日本いると考え方や価値観の小さな違いを気にしてしまうけれど、宗教や文化の違いなどを目の前にすると、そのような小さなことはどうでもいいことだなと思えるようになった。また、互いに違うからこそ話をすると今まで知らなかったことを知ることができて視野が広がった。

留学で得た知識・経験を、自身の将来にどのように活かしていくか（400 字程度）

留学中イスラム教について知り、日本人との違いを感じた。特に、イスラム教徒は豚や酒を原料とするものを口にしない、触れさえしない。また、一日に何度もお祈りをする。そのようなムスリムの生活を目の当たりにして、ムスリムにとって日本はかなり生活しづらい国なのではないかと感じた。日本在住のムスリムは現時点ではそれほど多くないと思うが、グローバル化や東京オリンピックの影響でイスラム教徒が日本を訪れる機会がこれから増加すると思うので、ムスリムが日本で快適に生活するためのサポートが自分にできればと思った。

また、日本で生活していると、水や電気が止まることなく供給されていることが当たり前だったが、留学中に何度も水や電気が止まることもあり、日本での生活がいかに便利で整備されているものかがわかった。だから、身の回りの物にあるものを当たり前と思わず、それらを提供や整備してくれている人たちのことを考えて小さなことにも感謝を忘れないようにしたい。そして、様々なテクノロジーをもつ日本に住んでいるからこそ、それらを必要としている人々に届ける側になりたいと思う。

派遣先大学で特に良かった点（300 字程度）

まず、先生方や生徒、食堂のお父さんお母さん、バスの運転ちゃんなどみんながとてもフレンドリーで優しい。校内を歩いているといろいろな人に話しかけられるし、先生方も私たちのことをよく気にかけてくれる。困ったことがあって友達に連絡すると、すぐに先生方や他の友達に連絡して誰かが手助けをしてくる。体調が悪くなったときは病院に連れて行ってくれたり食べ物を持ってきてくれたりしたのでとても助かった。

また、大学が広く自然豊かなので、歩いているとマンゴーやスターフルーツ、ランブータン、サウォなどおいしいフルーツがたくさん実っていて面白い。日本食や洋食を食べるには少し遠出をしないといけませんが、大学内や大学周辺のインドネシア料理もおいしいものがたくさんあるので遠出をしなくても十分楽しめる。

同じ大学へ行く後輩へのアドバイス（300 字程度）

先生方が授業を忘れているときや、生徒に連絡せずに出張に行ってしまうことがあるので、前日までに連絡して翌日の授業の場所と時間を確認しておいたほうが良い。連絡しないと授業がなかなか進まないが、逆に授業の予定をずらしてもらうことは難しくないなので、何かあるときは先生方に相談するといい。

寮や校舎内で電気や水が止まることもある。たいてい数時間で復旧するが、丸一日寮で水が使えないことが一度だけあったので、他の寮のトイレや風呂を借りることになるかもしれない。違う寮にも友達がいると心強いのと、それなりに強い心が必要。ただ、水や電気のありがたみを知ることができたので、いい経験にはなった。

フレンドリーな人が多いので、友達の誘いでスポーツなどをしに行くとそこでまた友達ができることが多い。気負わずにふらっと遊びに行くといろいろな交流や経験ができて良いと思う。

留学の様子がわかる写真（画像2枚程度）



海外留学報告書（専門科目履修者用）

●基礎情報

学科	食生命科学科	コース	国際食産業科学コース
派遣国名	インドネシア	派遣期間	2019年8月～12月
派遣大学名	スリウィジャ大学	所属学部等	農学部

●履修科目

科目名	科目コード	単位数	難易度（簡易な自由記述）
Functional food and food phytochemistry	PTH 307117	3	日本で学んだことが生かした
South Sumatera traditional food processing technology	PTH 410317	3	授業後資料をもらえる、復習をすれば大丈夫
Halal Assurance System	PTH 509317	3	授業後資料をもらえる、復習をすれば大丈夫
Traditional Processing Technology For Fishery Products	PHI 23115	3	パワーポイントで発表、レポートがある 復習をすれば大丈夫
Management of Fishery Industry	PHI 23215	3	パワーポイントで発表がある 課題はレポート

●おおまかな週間スケジュール（時間区分は適宜変更可）

	月	火	水	木	金	土	日
08:00	Halal Assurance System	Functional food and food phytochemistry		Management of Fishery Industry	South Sumatera Traditional Food Processing Technology		
09:40							
10:00			Management of Fishery Industry				
11:40							
13:00							
14:40							
13:00							
14:00							
15:00							
16:00							

●現地科目に関する基礎アンケート（該当する項目に○）

設問	①	②	③	④	⑤
授業の内容はわかりやすかったですか？ ①日本と同様の姿勢で受けることができた ②わからない部分は努力で克服した ③あまりわからず焦っていた ④大部分諦めてしまった ⑤その他		○			
授業の英語はわかりやすかったですか？ ①わかりやすい英語で理解できた ②ほとんど問題なかった ③わかりにくく苦勞した ④理解が困難だった ⑤主に現地言語が使用されていた			○		
シラバスや事前説明に沿って授業が進められていましたか？ ①計画通りに授業が進行した ②一部内容が異なったが問題なかった ③内容が突然変更されて困った ④全く内容が違った ⑤その他		○			
<p>その他特筆すべきこと（任意記述）：先生のスケジュールの関係で、時間割の変更がよくあった。コミュニケーション不足で、先生が授業に来ない時もあった。</p>					

●現地生活に関する基礎アンケート（該当する項目に○）

設問	①	②	③	④	⑤
現地学生とのコミュニケーションはいかがでしたか？ ①日本人学生と同様のコミュニケーションが取れた ②意思疎通がとれ、一緒に遊びに行ったりもした ③あまりコミュニケーションを取れなかった ④引きこもっていた ⑤その他		○			
以下、学生生活に関する各項目について評価をお願いします。 ① 非常に良かった ②良かった ③普通 ④悪かった ⑤非常に悪かった	/	/	/	/	/
・寮や宿舎の住み心地			○		
・大学の設備（講義室や実験室等）		○			
・現地での食事について		○			
・休暇を利用した課外活動への参加		○			
・体調を崩した時の相手大学担当教職員の対応		○			
・その他トラブルがあった時の相手大学担当教職員の対応		○			
・病気やトラブルがあった時に現地友人が助けてくれたか	○				
・病気やトラブルがあった時の現地日本人学生が助けてくれたか					
<p>その他特筆すべきこと（任意記述）：現地日本人はいなかった。電気や水道が止まることがあった。</p>					

授業で学んだ専門的な内容について（400 字程度）

ハラールの授業ではハラール食品についての規則や現状について学びました。イスラム教徒はハラール食品しか食べられず、豚肉やアルコールを口にすることはできません。また動物の肉も決められた殺し方をされたものでないとハラール食品にならないという決まりもあります。これらを学んだうえでハラールについてどう思うかと聞かれて、『私には難しい』と答えると、ムスリムの先生は『そんなことはない、シンプルで簡単だよ』とおっしゃったので、文化の違いだと思いました。また魚産業の授業を受けました。魚の保蔵方法については日本を学んだ保蔵学の授業とつながりましたが産業展開については知識がなかったのでインドネシアや世界のつながり等が見られて面白いと思いました。南スマトラ島の伝統料理については実際に工場に行き製造過程を見学しましたが、衛生面は日本の方が配慮していると思いました。また生地を練ったり、茹でたり、寝かせたりしている段階でどのような化学変化が起こっているかを学びました。授業外で先生と一緒に伝統料理を作ることでより深まりました。

海外の大学で授業を履修するにあたって工夫した点および反省点（300 字程度）

海外の大学で授業を履修するにあたって工夫したことは、授業が終わった後に授業の要点を自分なりにまとめたことです。授業によって理解度が異なっていたので、すべての授業においてノートを見返した時に『この日はこのような内容だった』とわかるようにキーワードや絵を使って残すようにしました。また私は英語があまり得意ではなかったのですが、なるべく授業で発言して積極的に授業に参加するよう意識しました。特に最初の頃は英語のみの授業に慣れなかったので『1つの授業で1回以上発言する』ことを意識しました。それができるようになると授業についていけると自信を持てるようになりました。反省点としては、わからない言葉がとて多かったので調べた単語をノートにまとめておけば、もっと語彙を増やせたと思いました。

多様な文化・価値観に触れることで得られたこと（300 字程度）

初対面の人に名前と同様に宗教は何かと聞かれることが多々ありました。聞かれる度に返答に困りました。インドネシアでイスラム教、ヒンドゥー教、仏教の人に出会いました。相手が自分と違う宗教であっても相手を責めることなく受け入れて接していました。日本にいた時は宗教と聞くと無理やりな勧誘や戦争などあまりいいイメージを持っていませんでした。しかしインドネシアに行き身近で見てみると弱い人を助けてあげよう、いいことをしようという精神に基づいているのだとイメージが改善されました。日本にはイスラム教やヒンドゥー教の人が食べられるものが極めて少ないと思いました。今後グローバル化に向けて海外の人にもっと日本に来やすくするためには、ハラール食品の導入なども検討するべきだと思いました。

留学で得た知識・経験を、自身の将来にどのように活かしていくか（400 字程度）

私は高校の時から留学をしたいと思っていました。留学で私が学びたかったことは、今まで経験したことないことを経験することです。その目的は達成できたと思います。楽しいこともしんどいこともたくさんありました。どれも日本では経験できないことでしたが、これからはどのような環境でも適応することができると思います。今回の留学で学んだことは、世の中には色んな人がいるということが知れたことです。日本人の中でも似た考え方の人や違う考え方をしている人がいるけど、国が違うことによってかなり価値観が違うことを実感しました。宗教を信仰しているかどうかによっても考え方は大きく異なっています。一日に何度もお祈りをするという風習は新鮮でした。また時間の感覚も日本人とインドネシア人ではだいぶ違うように思います。留学の最初の頃は他国の人との違いに戸惑いました。しかしそれが自分の枠に考え方に固執していたのだと気づきました。そしたら、色んな人がいて楽しいと思えて、途中からは留学を楽しむことができました。将来は、外国の人と一緒に仕事をしてみたいと思います。今回の経験により、違う国の人と仕事をするときも戸惑うことなく受け入れることができると思います。

派遣先大学で特に良かった点（300 字程度）

スリウィジャ大学でよかったことは日本人が少なかったことです。スリウィジャ大学には茨城大学の生徒以外に一人いるだけで、あとは現地の人や他の国からの留学生でした。つまり絶対に英語やインドネシア語でコミュニケーションをとらなければいけない環境でした。日常生活でも英語を使うことができ、英語に対する抵抗も減り、より上達することができたと思います。またスリウィジャ大学の生活は住みやすいとは思いませんでしたが、それがむしろよかったと思います。時々電気、水道が止まったり、外が煙まみれで悩まされたり、冷蔵庫や洗濯機やエアコンなどの家電がなかったりしましたが、不便だけども生活することができました。日本にいた時は当たり前だと思っていた環境が実は恵まれているのだと実感しました。

同じ大学へ行く後輩へのアドバイス（300 字程度）

インドネシアは日本と比べて生活や価値観や考え方が全く違います。あまりの違いに最初はかなり戸惑うと思います。しかしそれは留学でしか経験できないことであり、今まで触れたことのない文化を知るいい機会だと思います。インドネシア人は本当に優しい人ばかりです。困ったことがあったら必ず誰かが助けてくれます。また、インドネシア人だけではなくマレーシア人やベトナム人とも仲良くなることができました。同じ部屋で一緒に過ごすので同じ留学生として気持ちの共有もできるし、困ったときなどに助け合うこともできます。スリウィジャ大学の一番いい所は、日本人以外の人とのかわりが多くたくさんの人と仲良くなれることです。ただ歩いているだけでもみんな話しかけてくれるので、一つ一つの出会いや経験を前向きに受け入れることが留学をする上で大切だと思います。

留学の様子がわかる写真（画像2枚程度）



